

# 地域ケア会議

鹿児島市地域包括支援センター喜入

作成担当者： 内匠 緑

## 【計画】

開催日時	令和元年10月9日 14:00~16:00	開催場所	喜入公民館
参加者	喜入地区企業の代表者：15人、医師：1人、地域包括支援センター：4人、地域包括支援センター職員 総数 20 人		
内容	テーマ	企業への認知症対応普及に向けて	
	目的	地域包括支援ネットワークの構築、地域課題の発見、地域づくり・資源開発	
	概要	①喜入セブンについて ②企業の認知症対応についてのアンケート集計結果報告 ③意見交換	

## 【結果】

開催日時	令和元年10月9日 14:00~16:00	開催場所	喜入公民館
参加者	喜入地区企業の代表者：7人、医師：1人、警察：1人、居宅介護支援事業所：5人、地域包括支援センター：4人、地域包括支援センター職員 総数 18 人		
内容	①地域包括支援センターについて 地域包括支援センターの業務内容、喜入の状況（人口、高齢化率、高齢者サービス）の紹介 ②喜入セブンについて きいれ浜田クリニック 院長より講義 ・喜入で認知症になっても住みやすい町になるように、認知症の取り組み「喜入セブン」の説明 ③企業の認知症対応についてのアンケート集計結果報告 ・企業の代表者に回答していただいた結果を報告する。 ④意見交換 1、認知症の高齢者の対応で困ったこと。2、会社で取り組んでいること。3、今後取り組んでいきたいことについて話し合いを行う。 今回は、企業の方と直接話ができ、企業の現状や抱えている問題などを確認できた。企業からの意見を大きくまとめると以下の通り。 ・銀行関係や配達業の出席が主であったが、お金を扱う際のトラブルが多かった。トラブル時に家族背景を探ったり、協力者を求めることの難しさが聞かれた。トラブル時に、民生委員への協力依頼をしていることが多かった。 ・高齢者の異変を感じた際に、包括も相談先になるとの認識を持っていただけた。 ・認知症サポーター養成講座を受けても、その時だけで忘れてしまうので、継続的な研修が必要。窓口業務は若い人が対応するため、来所される高齢者との認識の違いを埋めるように上司は指導をしていく必要がある。 ・キャッシュレス化、機械化が進み、高齢者が順応できない現状がある。高齢者にあった手続きなどの仕組み作りが必要。 ・そもそも喜入は、交通の便が悪い。企業まで来ていただけないと取引ができない。交通の問題も課題に挙がった。 ⑤認知症施策紹介 サポーター養成講座申込、長寿あんしんネットワークメール、見守りメイト、認知症初期集中支援チーム等		
今後の課題等	・一部の企業の参加であったため、他の企業への周知をどうするか。 ・企業からでた意見を地域ケア推進会議でも検討していく。		